

令和六年度東京都立翔陽高等学校第十八回卒業式 校長式辞

本日ここに、令和六年度東京都立翔陽高等学校第十八回卒業式を挙げるにあたり、御多用中にもかかわらず、来賓の皆様をはじめ、多数の保護者の皆様の御臨席を賜りましたことを、心よりお礼申し上げます。保護者の皆様におかれましては、立派に成長されたお子様の晴れの姿をご覧になり、これまでの日々を思い返しながら胸を熱くされているのではないかと拝察いたします。お子様の高校卒業という大きな節目を迎えられたことに心から敬意を表しますとともに、これまで三年間にわたり学校行事に積極的に御参加いただくなど、本校の教育活動に多大なる御支援・御協力を賜りまして、心よりお礼を申し上げます。

さて、ただいま卒業証書を授与した二二九名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは学業や学校行事、部活動をはじめ様々な活動に誠心誠意取り組み、リーダーシップを発揮してくれました。その活躍ぶりや生き生きと輝いていた姿を私は今、思い出しています。授業では、自ら考えて発言できる生徒が多く、ペア学習やグループ学習においても、活発に活動していました。また、学校では日頃から3年次の担任団をはじめ、すべての先生方が皆さんを暖かく見守っていてくれる姿が私にはとても印象的でした。

本校のスクールミッションに、「国際社会で活躍できる、創造性や対人能力を身に付けた生徒を育成します」というフレーズがありますが、まさにこの生徒像を実感でき、皆さんの国際性が発揮できた行事として二年次のグアム修学旅行での一場面が挙げられます。それは現地校のサザン高校との交流会において、グループごとに英語で積極的にコミュニケーションを図るとともに、そのクライマックスとして本校の生徒が音頭を取ることで自然に両校の生徒全員がダンスを始め、ダンスが苦手な人たちにも手を差し伸べていつの間にか会場全体にダンスが広がっていった場面です。あの光景を見ていて、私はこれこそ翔陽生の創造性と対人能力の高さ、優しさだと実感した次第です。

一方、皆さんがこれから一步を踏み出す社会は、国内も国外も大きな変革の時の中にあります。生まれ育った地域の豊かな自然を豊かなまま後世に残し伝えること、少子高齢社会や情報社会に対応していくこと、他国の文化や風習を認め尊重し合いながらグローバルな視野で自他を認め合っていくことなど、枚挙にいとまがありません。そして、それらを担っていかなくてはならないのが、皆さんの世代なのです。いつの時代においても、社会をしっかりと支え、大きく進展させてきたのは、若者の持つ純粋な心と熱いエネルギーであり、これからも間違いなくそうでしょう。

これからの時代を生き抜いていく皆さんには、自分の夢や希望をしっかりと持ち、その実現に努力するとともに、社会の中での自分の役割を考え、生涯を通じて果たすべき「志（こころざし）」を持ってもらいたいと思います。例えば、「研究者になりたい」という夢があれば、その実現のために当然のことながら勉学に励んでもらいたい。それと同時に研究を通じて「自分は社会のために何をなすべきか」を考え、例えば「困っている人のために少しでも役立ちたい」という思いに至ったとすると、それはもう立派な「志」だと思います。それは仕事をするときの原動力となるでしょうし、研究の内容や質にも影響を及ぼしてくるでしょう。そのような「志」を持った数多くの先人のおかげで、間違いなく世の中は発展してきました。どうか、皆さんには自分の「志」を立てていただきたいと思います。

次の願いは、「心を耕す」ということです。人生を豊かに生きるため、また周囲の人々と協働してより良い社会をつくるため、基盤となる「心」を耕していただきたいと思います。ここでの「耕す」とは、様々な経験を通じて心を掘り起こし、未知の自分を知り、苦しいことや辛いことを乗り越えて、よりたくましく、より優しくなることなどを意味しています。読書をして人生の深さに気づき、生きるヒントを得ることも「心を耕す」ということです。大地を耕して初めて豊かな実りが得られるように、心を耕して柔軟で強い精神を養っていただきたいと思います。困難や失敗、挫折や落胆こそが、心の肥料となるということを忘れないでください。

三つ目の願いは、「言葉を磨く」ということです。人とつながり、互いを尊重・敬愛し、分かり合うために、自分の思いが相手の心に響くように、言葉を磨いていきましょう。言葉一つで人間関係は違った様相を呈してきます。言葉によって人は勇気づけられ、元気が湧いてきます。時には、その人の人生を大きく左右することもある

ります。そのような言葉の力を知り、その力を獲得することで、より良い人生を歩んでいきましょう。「言葉を磨く」ことは、永遠の営みです。どのような言葉を発すれば相手に受け止められやすいのか、正確に理解してもらえるのか、生きる力になるのか、日々、意識をしながら、少しでも「温かい言葉」をかけていきましょう。

今、私が皆さんにお願いした「志を持つ」「心を耕す」「言葉を磨く」の三つを見事に実践したアスリートをご紹介します。今年一月、日本の野球殿堂入りに続き、アジア勢初の名誉となるアメリカのメジャーリーグでも殿堂入りを果たしたイチロー選手です。アメリカのシアトルでの今回の受賞後の記者会見では、現在もマリナーズで現役選手と一緒に身体を動かしている理由を聞かれて、イチローさんは、「耳で聞いて理解するのと、目で見て理解するのは全く次元が違う。元気なうちは続けていきたい。日本の高校生たちとも交流がある。彼らにもプロの技術を間近かで見せることがすごく重要。これができなくなるのがいつなのか、見定めたい」と答えていました。また、感謝を伝える相手として、奥様の弓子さんとオリックス時代の仰木彬監督の名前を挙げた後に、「そもそも野球という存在がなければ、僕は一体何だったのだろう、何者かになれたのか、と今日特にそう思います。人との出会いと、あとは少しの運。努力することは当然として、この二つが大きく人生には影響するんだと改めて感じています」と話していました。さらにメンタル面を鍛える上で大事なことは？という問いに対して、イチローさんは「厳しい道を選ぶほか、ないのではないのでしょうか。楽な方に行くとメンタルは弱くなっていきます。技術的なこともそうです。楽な方に行くと身体はなまけてダメになっていくのと同じように、メンタルもそうだと思う。挫折を知らない、負けを知らないメンタリティーはすごく弱いと思う。チャレンジしてその瞬間は負けるかもしれないけれども、それを糧にして頑張る。克服していくことで築き上げるものではないでしょうか」と答えていました。この記者会見のやりとりの一つひとつが、志を持ち続け、心を耕し続け、言葉を磨き続けたイチローさんらしい姿だと私は思いました。

卒業生の皆さんは四月から新しい学びの中で知識や技能を習得したり、実社会の中でそれぞれが持つ知識や技能を活用していきます。人生の新たなステージで、高校時代に抱いた「夢」や「想い」を、信念と努力に裏打ちされた「志」に進化させ、心を耕しながら、言葉を磨き、花開かせてほしいと私は願っています。

私から皆さんに贈る言葉として、「鉄腕アトム」「火の鳥」「ブラック・ジャック」「ブッダ」などの作品で知られる漫画家の手塚治虫さんが座右の銘にしていた言葉を紹介します。

それは、「人を信じよ。しかし、その百倍も自らを信じよ」という言葉です。

これは、常に新しい表現方法を追い求めていた手塚さんがどれだけの強い精神力で作品を制作していたかがよく分かる言葉です。そして、「人を信じよ」という言葉からは、手塚さんの温かな人柄も伝わってきます。常に新しい表現方法を追い求め続けた手塚さんが制作に臨む、強い精神力を垣間見ることができますね。

最後になりましたが、あらためて保護者の皆様、お子様の御卒業、誠におめでとうございます。お子様は、人生の中で心身の変化が最も激しいときである高校での三年間を終え、このように身体も心も立派に成長され、今、学び舎を巣立とうとしています。さぞかし感無量のことと、ご拝察申し上げます。これまでにいただいた本校への御支援と御協力に対し、この場をお借りしまして厚くお礼申し上げます。

結びに、在校生、教職員、保護者の皆様と共に、卒業生の皆さんの「輝く未来」にエールを贈り、式辞いたします。

令和七年三月八日

東京都立翔陽高等学校長 博田 英明